

着任のご挨拶

健康管理センター長

井上 博睦



皆様こんにちは。

2020年4月から当院健康管理センターのセンター長として着任しました、井上といいます。

よろしくお願ひいたします。

私は平成13年に徳島大学を卒業後、東京大学医学部附属病院、社会保険中央総合病院内科で研修した後、3年目からは自治医科大学附属さいたま医療センターに勤めました。当時の思い出を披露いたしますとともに簡単に今後の抱負を述べさせていただければと思います。

当時私は何をやっても自信が持てませんでした。

自分より若い後輩のほうがはるかに自信をもってテキパキと仕事をしていましたから。

そんな折、消化器科勤務となり、当時教授だった吉田行雄教授がなさる内視鏡検査をみてすっかり心を奪われました。

その繊細で丁寧な内視鏡の進入がまるで内視鏡の先にみえない手がついているかのよう。その手さばきを見て、やはり消化器内科に進もう、と決めました。

当時私を含めて内視鏡検査の習いたての医師は5人ほどいたと記憶していますが、教授は1人1人に直接指導してくださいました。

とにかく否定をしない。ここがだめじゃないかとか、全然ダメなんてことは言わない。

「お前、上手だな。素質あるぞ！」なんて名手に言われれば、我々弟子はついその気になります。一人残らずみな内視鏡検査の修行に勇んで取り組みました。

私があの病院の中で「居場所」を作ることができたのもあの内視鏡のおかげ。緊急対応も含めて、人に仕事を任されることのうれしさを初めて実感することができました。

以降、私は内視鏡で病気を治療する様々な技術を学び、生かしたいと思ってきましたが、人生の中で常にその環境に恵まれたわけではありませんでした。大学院進学、就職先、前職、国立国際医療研究センター人間ドックセンターの組織構築など、任される仕事などでその都度、夢や希望は一時置かなくてはなりませんでした。

振り返れば私は消化器内科としてのキャリアと等しく健診に従事することが多くなっていました。ですが、私が一貫して師の背中を追い今なお実現と精進を重ねていること。

丁寧で繊細で苦痛の少ない内視鏡検査の実現。まだまだ師にはかないませんが・・・。

そして、内視鏡検査の可能性の追求。

皆さん、すい臓がんはだいたいどれくらいの大きさで見つけることができれば長生きが保証されるかご存知ですか？1cm程度。そのためには有望視されている検査は、「超音波内視鏡検査(EUS)」です。胃の壁に押し当てて脾臓を見る検査です。検査自身は30分ほどかかりますから、この検査は胃カメラのように簡単ではありません。その他にもいくつも課題があるのは承知の上。医療機器も高額です。病院が収益を上げるということは、単純な利潤追求以上の意味があります。医療の可能性を高めてゆくことにこそあるのだと思い、健康管理センターのますますの利用者の向上を目指し、夢の実現へと頑張りたいと思います。

さて、ただ私が内視鏡ばかりで生きてきたわけではありません。諸般の健康相談についても遠慮なくお申しつけください。よろしくお願ひいたします。